

第10回

I CTを活用した歩行者の 移動支援に関する勉強会

平成25年3月18日(月)

(参考：第9回勉強会資料より抜粋)

- ① 歩行者移動支援施策における主体とリスク
- ② サービス水準の確保

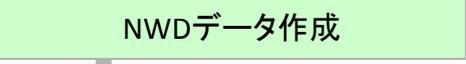
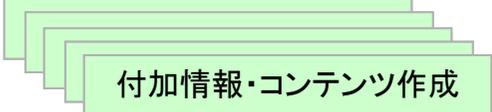
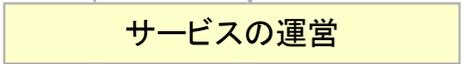
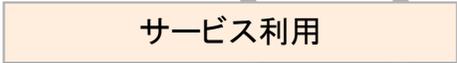
1. 現地事業における具体的サポートのイメージ

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

3. ロードマップの見直しについて

参考①歩行者移動支援施策における主体とリスク

※赤字部には横断的な一定のルールが必要である

	関係者	想定されるリスク	関係者によるリスク対応
	<ul style="list-style-type: none"> 計測事業者 施設管理者 障がい者 NPO等 	<ul style="list-style-type: none"> データ整備範囲や品質にムラが発生 	<ul style="list-style-type: none"> データ公開方法の規定 NWD整備仕様等による精度確認
		<ul style="list-style-type: none"> データ提供時の作成者責任が負担 	<ul style="list-style-type: none"> データ提供において提供者が被る責任の範囲を明確にする(責任所在の明確化、免責事項の設定) 情報の著作者や権利者の情報を明記する(出典、クレジットの標記) データオープン化の共通ルール検討
	<ul style="list-style-type: none"> 【多様な主体】 観光協会、商工会 交通事業者 障がい者支援事業従事者 NPO等 	<ul style="list-style-type: none"> データの誤り等による事故の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 責任所在の明確化、免責事項の設定 データの商用利用の可否、許可事項、禁止事項を明記して情報の取扱いを規定(利用範囲の規定)
		<ul style="list-style-type: none"> 情報の予期しない利用(個人の見解を公のものとして誤解される等) 	<ul style="list-style-type: none"> 利用範囲の規定 罰則等の規定 コンテンツ作成や公表に際して、当事者が設定した取り決めの開示
	<ul style="list-style-type: none"> システム開発企業 	<ul style="list-style-type: none"> システムの予期しない利用 	<ul style="list-style-type: none"> 責任所在の明確化、免責事項の設定 技術仕様(案)の見直し
	<ul style="list-style-type: none"> IT系の愛好家 	<ul style="list-style-type: none"> システムの予期しない利用 個人の能力や資金力の限界の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 責任所在の明確化、免責事項の設定 IT系の愛好会へのサポート体制
	<ul style="list-style-type: none"> 協議会等 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの運営ノウハウが不足 	<ul style="list-style-type: none"> リスクに関する事例・情報の共有化 関係者間へのリスク情報の周知
	<ul style="list-style-type: none"> コンサルタント 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの信頼性にムラが発生 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの利用規約を設定
	<ul style="list-style-type: none"> 自治体等 	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の低いサービスは企業として損失を伴う 	<ul style="list-style-type: none"> 企業サポートを行うメンバーの拡大 利潤以外の価値観の共有
	<ul style="list-style-type: none"> 一般利用者 障がい者 観光客 外国人等 	<ul style="list-style-type: none"> 活動が自治体権限を越える 活動が年次予算を超える 	<ul style="list-style-type: none"> メリットを重視しリスクを保有。 利用者に対してサービスの適切な使用や内容の理解について促すための説明を明記(注意事項やQ&A)
		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の自己責任範囲が拡大(事故等が生じた場合の泣き寝入りの可能性) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体をサポートするメンバーの拡大(協議会等の設置) 自治体の関与を明確化
	<ul style="list-style-type: none"> 特定の利用者 ボランティア等の有志 	<ul style="list-style-type: none"> 情報確認者への責任負担 	<ul style="list-style-type: none"> 責任所在、免責事項の確認
		<ul style="list-style-type: none"> データ更新停止時の信用不安 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体間における情報の共有や意見交換 サポートメンバーの拡大

参考②サービス水準の確保

- ①本施策は、地区の特色を活かしながら鮮度の高い情報を提供することが重要
- ②ユーザーの多くは、観光客等のその地区に不案内であるが故に利用される現実
- ③それらのユーザーは、他の地区でもサービスを利用する可能性は大きい

横断的、共通的に必要な視点



目指すべきサービス水準の提示(国の役割)

- ①経路案内や段差情報は、情報量(密度)や精度について一定の水準を確保することが重要
- ②情報の充実を図り、鮮度の高さを向上させるため、情報公開(オープンデータ)が重要
- ③責任の所在を明確にするため、関係者の役割分担も明確にすることが重要
- ④地区毎の課題を集約し、方向性を示すことが重要
- ⑤ユーザーとして外国人も対象となることから、国際的な視野で方向性を示すことが重要
- ⑥GISとの連携など、将来的なデータの活用や可能性を先駆的に取り組む必要がある

1. 現地事業における具体的サポートのイメージ

1 - 1. 歩行者移動支援サービスの導入と水準確保の関係について

1 - 2. 事業者とサポートの関係について

1. 現地事業における具体的サポートのイメージ

1-1. 歩行者移動支援サービスの導入と水準確保の関係について

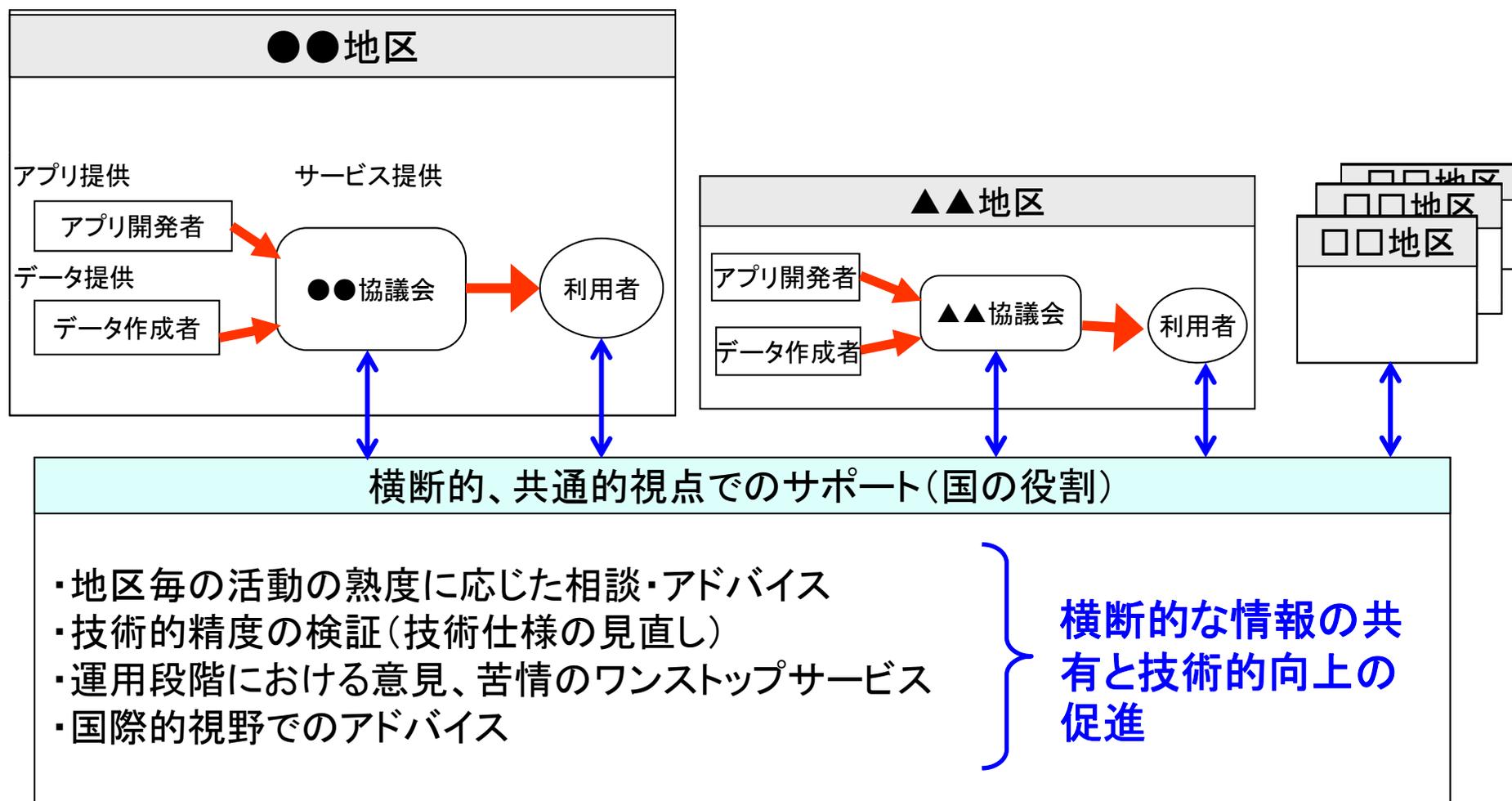
サービスの水準確保のためにはサービス導入の各段階で、横断的、共通的な視点でサポートが必要である。

準備・導入までの実施事項				横断的、共通視点の支援項目
検討段階	事前調査	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズ調査 他地域の導入事例を収集 	<ul style="list-style-type: none"> 実施体制案を作成 サービスの基本要件を決定 	<ul style="list-style-type: none"> 各地のニーズやサービスの導入事例に関するアドバイス 実施主体間の情報共有に資する機会創出
	基本検討	<ul style="list-style-type: none"> 実施体制検討 導入費用・導入効果の概算把握 	<ul style="list-style-type: none"> 実施体制案を作成 サービスの実現可能性を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の関わり方や協議会の設置事例に関するアドバイス 開発費・維持費の概算目安、導入効果の事例に関するアドバイス
導入判断（協議会の設置）				
構築段階	詳細検討	<ul style="list-style-type: none"> システムの構築条件整理 	<ul style="list-style-type: none"> システム条件 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外で利用できるAPI※、オープンデータ等の整理、情報提供 免責事項等、リスクに関する事例・情報の整理、情報提供 歩行空間ネットワークデータ整備仕様案の提示、見直し システムの技術仕様(案)の提示、見直し データオープン化の共通ルールの提示 システムの技術情報に関するサポート体制の確立 チェックリスト等の基本事項の提示
	システム構築	<ul style="list-style-type: none"> プログラム開発や設備等を設置 システム動作テスト 	<ul style="list-style-type: none"> システム構築 	
	運用準備	<ul style="list-style-type: none"> 利用マニュアルの作成 試験運用 広報周知 	<ul style="list-style-type: none"> 利用マニュアル作成 本運用に向けた確認 	
運用開始				
運用段階	本運用	<ul style="list-style-type: none"> 運用状況の確認 サービスの利用状況を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 導入効果の把握 運用段階で把握した課題整理 	<ul style="list-style-type: none"> 利用マニュアルの基本例の提示 運用時のリスクやリスクの対応事例を提示
「歩行者移動支援サービスの導入に関するガイドライン(案)平成24年3月版」、図3-1サービス導入の流れ(p22)より抜粋				<ul style="list-style-type: none"> 各地のサービス実施をまとめPR 実施主体間の情報共有に資する機会創出

1. 現地事業における具体的サポートのイメージ

1-2. 事業者とサポートの関係について

協議会関係者等とサポートの関係は、それぞれの地区で様々な活動を展開する関係者に対して、横断的、共通的な視点で情報の共有を図り良好な関係が必要となる。



2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

(横断的、共通的に必要となる視点 (国の役割))

2-1 技術、精度に関すること

経路案内や段差情報等、情報量(密度)や精度について一定水準を確保するための視点

2-2 情報の公開に関すること

情報の充実を図り鮮度の高さを向上させるための情報公開(オープンデータ)に関する視点

2-3 責任の分担に関すること

責任の所在を明確にするため、関係者の役割分担も明確にすることが重要

2-4 運営等の情報共有に関すること

地区毎の課題を集約し、方向性を示すことが重要

2-5 国際的な方向性に関すること

ユーザーとして外国人も対象となることから、国際的な視野で方向性を示すことが重要

2-6 将来的なデータ活用に関すること

GISとの連携など、将来的なデータの活用や可能性を先駆的に取り組む必要がある

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-1 技術、精度に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・新製品、OS新バージョン等の情報提供・よりよいシステムの提供・基盤となる情報(地図、施設等)の提供・サービスの優良事例や工夫事例の評価や推奨・ucode申請の取り次ぎ	<ul style="list-style-type: none">・利用者の拡大・利用者の満足度向上・地区毎のサービス格差の解消・地区間競争の促進
総合的に取組む事項	<ul style="list-style-type: none">・総合的な相談窓口の設置・サービスの優良事例や工夫事例の評価や推奨・歩行空間ネットワークデータ(NWD)の整備仕様に関する運用の説明・位置特定技術の最新情報と正確性・適用性に関する検証、説明	<ul style="list-style-type: none">・情報の共有化・サービス向上の動機付・NWD利用の適正化・サービスの精度向上

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-2 情報の公開に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・データの公開方法のアドバイス・データの更新に関する、手法・精度に関するチェック機能・利用者等からの情報提供に対する取り扱いのアドバイス	<ul style="list-style-type: none">・スムーズな公開の実現・適正なサービスの維持・情報の鮮度の維持
総合的に取組む事項	<ul style="list-style-type: none">・歩行者移動支援サービスに利用可能なオープンデータに関する情報集約と情報提供・システムプログラムのAPI※化と公開・広く他の分野や他のシステムでの利用促進	<ul style="list-style-type: none">・サービスの多様化の促進・新たな実施地区の拡大・新たな需要の創出

※ API : Application Programming Interface

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-3 責任の分担に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・<u>免責事項の伝え方をアドバイス</u>・<u>免責事項と関係者の関係のチェック</u>	<ul style="list-style-type: none">・<u>免責事項の相互理解</u>・<u>免責の空白の解消</u>
総合的に取組む事項	<ul style="list-style-type: none">・<u>トラブル・課題に対する対応検討(外部有識者の活用)</u>・<u>過去のトラブル事例を集約し情報提供</u>・<u>ガイドライン、ノウハウ集のスパイラルアップ</u>	<ul style="list-style-type: none">・<u>客観的な対外対応</u>・<u>トラブルの緩和・解消</u>・<u>運用や対応のレベルアップ</u>

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-4 運営の情報共有に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・サービス導入の各段階におけるアドバイス・サービス提供者同士の情報交換取り次ぎ窓口	<ul style="list-style-type: none">・継続的な運用の実現・サービスレベルの向上
総合的に取組む事項	<ul style="list-style-type: none">・サービス導入の各段階におけるリスク事例の収集・情報提供・運営ノウハウや、技術情報、人材情報などの収集・情報提供・全国的協議会の設置・運営	<ul style="list-style-type: none">・運営ノウハウの向上・情報共有の促進

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-5 国際的な方向性に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・外国人を対象としたサービスのアドバイス	<ul style="list-style-type: none">・インバウンド増加・観光地活性化・日本の取り組みの海外向けアピール
総合的に取り組む事項	<ul style="list-style-type: none">・外国人来訪者に対するサービス事例の集約と情報提供・海外から持ち込んだ端末を利用する場合の問題など、技術的な問題等に関する情報提供・国際的ルールの検証 (ピクトグラム(絵記号)、文化、習慣などの作用)	<ul style="list-style-type: none">・外国人観光客の拡大・外国人に対するサービスの向上

2. サービス水準の確保に関する具体的イメージ

2-6 将来的なデータ活用に関すること

	横断的・共通的に必要な対応	効果
現地サポート的事項	<ul style="list-style-type: none">・将来的な活用の可能性のアドバイス	<ul style="list-style-type: none">・新しいサービスの創出・サービスの新たな担い手の発現への期待
総合的に取組む事項	<ul style="list-style-type: none">・GISや他の分野のオープンデータとの連携・活用に関する調査研究・歩行者移動支援サービスに利用できる新技術の研究・場所情報コード(ucode)を利用する他サービスとの連携・調整・施設管理者等からのデータ提供に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ユニバーサル社会の実現

3. ロードマップの見直しについて

歩行者移動支援サービスの普及に向けたロードマップ

